

虹いろ



題字・表紙絵 板山 玉枝 様より

トピックス

令和6年度の歩み
雑踏展
バリアフリー演劇祭
各事業所振り返って

38

令和7年(2025)3月発行

令和6年度の歩み

理事長 長田 和也

「地域生活支援拠点」、「強度行動障害支援」、「意思決定支援」こんな言葉を「ご存じでしょうか？」

虹色37号でも触れましたが、今年度障害福祉の報酬改定があり、国は「障害者が希望する地域生活を実現する地域づくり」「社会の変化等に伴う障害児・障害者のニーズへのきめ細かな対応」「持続可能で質の高い障害福祉サービス等の実現のための報酬等の見直し」を柱に新たな加算や障害サービスの基準・報酬単価の見直しを行いました。冒頭の3つの言葉は報酬改定を踏まえ法人が取り組んだことを表す言葉です。しかし、投げかけさせていただいた様に、「この難しい言葉を知っている方がどれくらいいるのでしょうか？」

地域の中で共に暮らすことを理念として掲げているにもかかわらず、分かる言葉で発信ができていない、難しい言葉を使う事で、「私たちはこんなすごい事をやっています」という特別感を出して満足しているのではないのでしょうか。福祉のサービスで支えられているとはいえ、障害者は地域の中で暮らしているのに、地域の人たちが知らないという状況と同じなのではないかと痛感します。

今年度の取り組みは、「生活するうえで困った時にすぐに相談に乗れる、助けてくれる人たちの輪ができて問題が解決する、色々な体験をする場所がある」という拠点を

事業に取り組み始めました。また「コミュニケーションが苦手な重度障害者に関わるための技術」を学ぶ研修を受け、日々の関わりに生かすための環境調整を行うとともに、他の法人と一緒に質を上げていく研修を月1回行っています。そして、障害者の気持ちや言葉をきちんと確認する役割の職員を決め、施設の日中を他の場所で過ごしたり、グループホームの体験をしたり、一緒に楽しむ根拠を探すことに尽力しています。

今年度の歩みを一言で言うなら「学び」です。本人を知る、本人の困りごとを知る、本人の持っている力を知ることによって困らない環境をつくる。本人とのより良い関係をつくる。そのための学びを深めた一年でした。

さあ！力を発揮する準備は整った。

『雑踏』展について

YAN山梨オールブリュットネットワークセンター

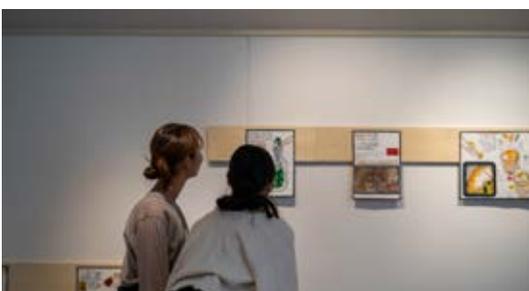
センター長 瀧澤 聡

『雑踏』。人々が甲府の街とアートを巡る様子をイメージした展覧会のタイトルである。本展は当センターが「令和6年度山梨県『オールブリュット魅力発信事業』」を受託し企画、開催。10月11日～20日の10日間、甲府市内のギャラリーやカフェ等6か所を会場に、県内外の作家10名、174点の作品展示を行った。

山梨銘菓「くろ玉」で知られる澤田屋本店の2階

ギャラリー「espace・櫻町」では、食をテーマに制作する作家2名を展示。埼玉県在住の小林一緒さんは、某有名店のお弁当を色鉛筆や水性ペンを使って描く。来場者は克明かつ味わい深いタッチで描かれた作品を興味深く覗き、絵と共に記された寸度ない味への感想に笑みを浮かべる。山梨県在住の坂本絵里さんの作品は独自に開発した技術を駆使したフードフィギュア。会場に並んだケーキやブラタンは本物と見紛うほど。食べかけのカレーパンはフスツと笑いを誘う。そうした作家のストーリーが想起される魅力的な作品を、各会場の雰囲気に合わせて展示していった。

本展の制作には作家やご家族、支援者の他に、デザイナーを含め関係者の方々の多大なるご協力があった。ビジュアルデザイン担当のCLICKさんには、作家訪問に同行のうえ作家や支援者への取材を経て、本質に迫る素晴らしい映像や美しいデザインのWEB、



小林一緒さんの作品展示

撮影：篠鉄平

ZINE(展覧会冊子)を制作いただいた。また、東京を拠点とする空間デザイナーの國重裕太さん木村優作さんは何度も山梨に足を運んでくださり、現地会場の測定や当法人内で保管している作品を仔細にわたり調査いただいた。作品什器は空間と



撮影：篠鉄平

調和して想像をはるかに超える美しい展示となった。ここに全ての方

を記すことはできないが、関係者の方々のご尽力に対して感謝の念に堪えない。

「ご好評いただいた『雑踏』展は、来年度も甲府の街で開催することが決定した。さらに、新しい出会いが甲府の街で生まれ、様々な人と繋がっていくことを楽しみに、展覧会を丁寧に取り上げていきたい。本展を見の方は公式WEBサイトの3Dウォークにて『雑踏』展を体感いただけたら幸いです。



雑踏展 WEBサイト

みんなで楽しむ

バリアフリー演劇祭

東京演劇集団風

演目：星の王子さま

演劇祭実行委員 のはら楽団支援員 小松亮太

皆さん、こんにちは。

昨年12月8日に開催された、あの最高の一日、演劇祭からも3ヶ月が過ぎてしまいました。

皆さん覚えていますか？



さて、今回で4回目の開催でした。今までは、国などからのサポートもある中で行ってきましたが、今回初の試みとして、クラウドファンディングでの開催となりました。

北杜市を中心とした、近隣の皆様と実行委員を結成し、演劇祭に向けて様々な学習会を行い意識を高める事が出来ました。その中で、今回、裏メインとなるクラウドファンディングなどの説明や各種集金後の案内などを、共有する会もありました。

そして、協力していただける地域の方、福祉団体、障害当事者の皆さんそれぞれ代表の方々による勉強会も開催しました。今までの流れの話や障害全体、障害を持つ子供さんの支援の話、そして障害当事者などによる各分野の話や皆で学び意識やアクションを高めました。クラウドファンディングや寄付・協力・協賛金などに関しては、実行委員の皆さんの声掛けをきっかけに、協力賛同してくださるこの地域の企業・商店・個人などの皆さんからのご協力いただきました。又今回は、市内外県内外の垣根を越えて、それぞれ色々な方たち思いで協力サポートしてくださった皆様もいらつしゃいます。ありがとうございました。

実行委員・名水会・風の皆さんで、舞台・会場準備も完了。

さて、いよいよ当日。朝から、実行委員、劇団「風」、出店予定の皆さん、それぞれラスト準備と打合せも終

了し、開場開演となりました。演劇には今回は実行委員も、数名参加させていただき、僕も『呑み助』よっぱらいの役をさせていただきました。やあく楽しかったあく最高の時間でした。

その他にもすてきな場面がたくさんありました。さおりさんのピアノ演奏やステージ上でニコニコ楽しんでいる方など終始感動がありました。

風さんとの何気ない会話で、日野春学舎の体育館は舞台として組みやすいとのこと。それは、昔ながらの体育館だからこそ舞台や照明機材の設置・設置がとてもやりやすく嬉しいと聞きました。ありがたいかぎりです。さらに、日野春学舎に来ると、ただいま〜おかわり〜という雰囲気でも、とても落ち着くとも言ってくれて、嬉しいかぎりですね。

今までと形の違うやり方でしたので、準備・当日本番その後それぞれ大変でしたが、楽しく、成功させた

いなどの思いを胸に、皆様の協力や支援熱い思いなどで大成功に導くことが出来、本当に良かったです。皆様本当にありがとうございました。ありがとうございました。またやりたいです。みんなのつながりで次のGO〜が出せますように。





参加を通じて感じた成長と学び

バリアフリー演劇祭

キッズクラブひまわり

所長 守谷 真由美

今年、キッズクラブひまわりとして「バリアフリー演劇祭」に参加させていただき、3回目を迎えることができました。この演劇祭は、子どもたちが自由に表現できる場であり、観客として見るだけでなく、舞台上で演じることもできるというユニークな特徴があります。この自由な環境の中で、子どもたちがのびのびと楽しんでいる様子を間近で見ることができたのは、非常に貴重な経験でした。

特に印象に残ったのは、子どもたちが言葉だけに頼らず体全体で感情を表現していたことです。その場の雰囲気や音に反応し、自由に動く姿は、演劇の本質的な楽しさを教えてくれました。また、回を重ねるごとに子どもたちが少しずつ自信をつけ役を変えてみたり、最初は見る

だけだった子ども次第に舞台上上がり、自分なりの表現を楽しむようになる過程を見守ることができました。

この演劇祭を通じて自由に表現することの大切さをより一層学ぶことができました。また、子どもたちの表現を受け入れ、一緒に楽しむ姿勢が、より良い関係を築く鍵であることを改めて実感しました。子どもたちが安心して表現できる場を提供するためには、柔軟な心で向き合うことが必要だと感じました。

1年を振り返ってみると、「バリアフリー演劇祭」での経験は、私たち職員にとっても大きな学びの場でした。子どもたちの成長を見守りながら、自身も成長することができました。この貴重な機会を今後も大切にし、子どもたちが安心して表現できる場づくりに貢献していきたいと思えます。

令和6年度を振り返って

星の里

支援員 久保田 浩史

令和6年を振り返ると、1月1日の能登半島地震、さらに9月には能登半島地震の被災地を豪雨が襲うなど、災害により多くの尊い命が失われ、改めて防災対策の重要性を認識した1年でした。星の里でも年2回の災害避難訓練を実施しています。利用者さんに避難してもらうためにひと苦労しましたが、避難完了まで15分ほどで落ち着いて避難できました。今後も訓練を重ね利用者さんの安全・安心な施設を心がけていきたいと思っています。

8月3日には星の里の二大イベント



トである、夏祭りが猛暑の中ではありませんでしたがおこなわれました。ここ数年は中止や規模を小さくして実施していましたが今年是他事業所の職員や保護者の方、ボランティアの方も参加してくださいました。多くの模擬店(ポテト、チョコケーキ、かき氷、ジュース、唐揚げ、やきとり)が出店され、みなさん普段と一味違ったメニューを堪能されたり、輪投げ、ピンボール、ヨーヨー釣り、クジ引き、縁日ゲームを楽しまれました。また、フラダンスやキッズクラブひまわりの子供たちによる「リトミック」、種まきーズの方々によるダンスや演奏に利用者さんも見入っていました。保護者の方も久々に利用者さんと一緒に楽しまれていました。

11月6日に山梨県知的障害者支援協会主催の「スポーツ大会&交流文化祭」が開催され、小瀬スポーツ公園へ出掛けてきました。舞台発表、サッカー教室、フライングディスク、玉入れなど、ゆとりのあるタイムスケジュールで、他事業所の方とも交流しながら、楽しく参加することができました。大きな行事とあって、会場での利用者さんの笑顔

が印象的でした。これからも、日々の活動や作業の他、このようなイベントにも積極的に参加していきたいと思っています。

星の里の生活介護事業ではアート活動を中心に行っており、月一回講師の方を招いて書道を行っています。今年度は障害者による書道写真全国コンテストに下橋誠さんの作品が銀賞に選ばれ、障害者文化展に小林由美さんの陶芸作品が入選されました。他にもアート活動として「笑いヨガ」「陶芸」「粘土」「絵画」なども講師の方を招いて取り組んでいます。集中して取り組めたりうまくいかないことがあります。職員が日々の活動内容を検討し利用者さんにあったものを提供することできると幅が広がったと思います。今後利用者さんが楽しくやりの活動ができるように職



▲「第39回障害者による書道、写真全国コンテスト」
書道部門 銀賞作品 下橋誠さん



▲障害者文化展「陶芸作品」
小林由美さん



員一丸となって活動を提供していきたいと思っています。

はるのひ・なのはな

支援員 穂坂 雄太
支援員 宮下 友里奈



今年度も「はるのひ・なのはな」では季節に応じて様々なイベントを企画・実施してきました。

春には、桜が咲き誇る中での花見。牛池や穴山さくら公園で美しい花々をお菓子とともに楽しみながら交流を深めました。

夏は、納涼祭。昨年度からはるのひ・なのはなだけでなくのはら楽団とも合同で開催しましたが、今回は地域の方々を加えての壮大な企画となる予定でした。しかし、直前になって台風接近の予報が出てしまったため、安全を考慮して本来の計画は中止となってしまいました。後日、規模を縮小してではありましたが納涼祭は開催されました。ハッピを着て射的や宝つり、た

こ焼き、かき氷などの屋台を楽しみました。



秋のハロウィンパーティーでは、地域のご近所さんのお宅へお菓子を頂きに歩きました。コロナ禍の間では出来なかつた地域の方々との交流、楽しそうに過ごす姿を見られた事がとても印象的でした。



仮装して変身、大好きなお菓子を貰って「ニコニコ、みんなが踊ってわいわい、笑顔がたくさん。年終わり最後にみんなが楽しみにしているイベント、クリスマス会では、お汁粉、お菓子、ツリー飾りつけ、カラオケ、クリスマスダンス、みんな楽しんで時間を過ごしました。

季節ごとの代表的なイベントを振り返りましたが、他にも多くのイベントを企画・実施しました。来年度もまた、たくさん笑顔溢れる「はるのひ・なのはな」となるよう楽しいイベントを企画していきたいと思いま



す。

のはら楽団

支援員 河合 直子

「何が一番楽しかった？」と利用者さんにたずねたら、きつとたくさんの方が「旅行！」と答えるだろうなと思います。

のはら楽団では、利用者さんの特性、ニーズに合わせて、いくつかのグループに分かれ、白樺湖や石和温泉へ旅行に出かけました。その中でも、みなさんが楽しかったと口をそろえたのが「部屋飲み！」(笑)。もう立派な大人の方ばかりなので、飲みたい方が一つの部屋に集まり、ワイワイガヤガヤ。夜中までにぎやかに、大人の修学旅行みたいに、利用者さんもスタッフもとても楽しみました。



また、旅行の楽しみと
言えば、食事
と温泉ですね。
ビュッフェでは、

和洋中他たくさんのお料理の中から、自分の好きなものだけを選んで食べられ、おかわりも自由なんて！夢のようなひとときに、みなさん笑顔があふれていました。温泉も広い湯船にゆっくりとつかり、仲間と普段はしない話などしたりして、リラックスできたのではないのでしょうか。

のはら楽団の良さは、一つの大きな家族のような雰囲気があるところです。就労チームは、頼りがいのある兄弟のよう、生活介護チームは、愛されキャラの弟妹のようです。そんなのはら楽団で、利用者みなさんが日々楽しく過ごしてくれたり。それが、スタッフ一同の願いです。

訃報のお知らせ

法人設立より多大なご尽力を賜りありがとうございました。

元理事長 二代目理事長 森 寅雄 様 令和6年10月27日 ご逝去
四代目理事長 坂本 敬新 様 令和6年12月1日 ご逝去
ご利用者様

榊形 健男 様 令和6年11月1日 ご逝去 71歳
宮澤 理法 様 令和7年3月4日 ご逝去 75歳

89歳
88歳



皆様のご逝去を悼み心よりご冥福をお祈りいたします。